

# 佐賀県立博物館・美術館報

No.66

佐賀市内 丁目15番23号 TEL 0952 (24) 3947



## 秋郊鳴鶴図

土佐光起・光成筆（東京国立博物館蔵）

本図は、土佐光起（一六一七～一六九二）が鶴を描き、光起の子光成（一六四六～一七一〇）が菊などの草花を描いたもので、優美で、いかにも貴族趣味的作品である。

大和絵画派の土佐派は、室町時代に宮廷絵所預として名を馳せた。しかし、戦国の世になると宮廷の力が衰え、さらに土佐家の正系が絶えるなどして、絵所預の職を離れることになる。江戸時代に入り、光起が再び宮廷絵所預の職を許され、土佐家は復興をとげる。

光起は、伝統的大和絵の手法のほか、宋の画院の画風を花鳥画にとり入れるなど、自派に新風を吹き込んだ。特に鶴の図は、光起の得意とするところであった。

本図には光起、光成それぞれの落款があり、光起の落款「土佐法眼常昭筆」より、光起が法眼に叙せられた貞享二年（一六八五）以降の作であると思われる。

目次	○秋郊鳴鶴図 土佐光起・光成筆	表紙
	○「日本の美」展開催要項	2P
	○出品目録	2～5P
	○佐賀県考古学史-3- 木下之治（その2）	6～7P
	○展覧会案内-古唐津・中里無庵・十三代太郎右衛門展	8P

## 東京国立博物館巡回展開催要項

名称 日本的美——縄文から江戸時代まで——  
 主旨 わが国は、長い歴史のなかで感性豊かな文化をはぐくんできた。大陸諸地域からの影響を受けつつも独自に発展してきた文化には、日本民族特有の美意識が反映されている。  
 本展覧会では、縄文から江戸時代までのすぐれた美術品を一堂に展覧し、わが国の多彩な美の伝統を総合的に見ていこうとするものである。  
 主催 東京国立博物館、佐賀県教育委員会、佐賀県立美術館

会場 佐賀県立美術館  
 佐賀市内1丁目15-23 〒840 Tel0952-33947  
 会期 昭和59年10月6日(土)～11月4日(日)  
 開館9:00～16:30、入場は16:00まで、月曜日は休館  
 観覧料  
 大人 500円(350円)  
 大・高生 250円(150円)  
 中・小生 150円(100円)  
 ( )内は20名以上の団体料金  
 図録 展示作品の図録を発行する

## 出品目録



6. 土 偶



18. 製袿禪文銅鐸

番号	名 称	員 数	時代
<b>先 史</b>			
1	深鉢形土器 東京都秋川市草花出土	1 個	縄文中期
2	深鉢形土器 栃木県那須郡黒羽町出土	〃	〃
3	壺形土器 秋田県仙北郡六郷町石名館出土	〃	縄文晩期
4	注口土器 東北地方出土	〃	〃
5	皿形土器 東北地方出土	〃	〃
6	土 偶 埼玉県鴻巣市滝馬室出土	〃	縄文後期
7	壺形土器 名古屋市長久保区牧町出土	〃	弥生後期
8	甕形土器 名古屋市長久保区瑞穂町出土	〃	〃
9	高坏形土器 〃	〃	〃
10	壺形土器 宮崎県西臼杵郡高千穂町岩戸出土	〃	弥生中期
11	甕形土器 〃	〃	〃
12	細形銅剣 福岡県糸島郡前原町井原出土	1 口	〃
13	平形銅剣 愛媛県松山市道後今市出土	〃	弥生後期
14	銅 戈 佐賀県鳥栖市柚比町安永田出土	〃	弥生中期
15	銅 戈 佐賀県東松浦郡浜玉町谷口出土	〃	〃
16	銅 矛 佐賀県唐津市久里出土	〃	〃
17	流水文銅鐸 岡山県吉備郡真備町妹出土	1 個	〃
18	製袿禪文銅鐸 和歌山県日高郡日高町荊木出土	〃	弥生後期
<b>原 史</b>			
19	谷口古墳出土品 佐賀県松浦郡浜玉町谷口古墳出土	一 括	古墳4～5C
20	三角縁二神二獣鏡 京都府長岡京市南原古墳出土	1 面	〃 4 C
21	三角縁二神二獣鏡 静岡県磐田市松林山古墳出土	〃	〃
22	須臾器裝飾付脚付埴 岡山県邑久郡長船町出土	1 個	〃 6 C
23	埴輪男子 群馬県太田市由良出土	1 体	〃 6～7C
24	〃 女子 群馬県群馬郡箕郷町上芝出土	〃	〃 6 C
25	〃 盾 群馬県藤岡市出土	1 個	〃 6～7C
26	〃 馬 埼玉県深谷市上敷免出土	1 体	〃
27	〃 切妻遣家 宮崎県西都市西都原出土	1 個	〃 5 C
<b>有 史</b>			
28	蓮華文鏡瓦 奈良県高市郡明日香村飛鳥寺出土	1 個	飛鳥6 C
29	蓮華文鏡瓦 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺出土	〃	奈良7 C
30	忍冬唐草文字瓦 〃	〃	〃
31	蓮華文鏡瓦 奈良県高市郡明日香村大官大寺跡出土	〃	〃



27. 埴輪切妻造家

32	唐草文字瓦	奈良県高市郡明日香村大官大寺跡出土	1	個	奈良7C
33	蓮華文鏡瓦	奈良県橿原市高殿町藤原宮跡出土	〃	〃	〃
34	唐草文字瓦	〃	〃	〃	〃
35	須恵器骨壺	奈良県磯城郡三宅町伴堂出土	〃	〃	8C
36	銅製経筒	静岡県沼津市岡一色三明寺出土	〃	〃	鎌倉1196
37	陶製外筒	〃	〃	〃	〃

絵画

38	五髻文殊像		1	幅	鎌倉14C
39	地藏菩薩像		〃	〃	〃
40	春日本地曼荼羅図		〃	〃	〃
41	◎ 因幡堂縁起		1	巻	〃 13C
42	鼠草紙		〃	〃	室町15C
43	◎ 蘭惠同芳図	玉晚梵芳	1	幅	〃 14C
44	山水図 笠雲等連費	伝周文	〃	〃	〃 15C
45	靈昭女図	圭叱斎	〃	〃	〃 16C
46	周茂叔・林和靖図屏風	狩野探幽	6曲1双	〃	江戸17C
47	猿曳図	狩野尚信	1	幅	〃
48	新三十六歌仙図帖	狩野永納	1	帖	〃
49	秋郊鳴鶉図	土佐光起・光成	1	幅	〃
50	橘姫物語絵巻	伝住吉具慶	1	巻	〃
51	木工権守孝道図	冷泉為恭	1	幅	〃 19C
52	藤・牡丹・楓図	本阿弥光甫	3	幅	〃 17C
53	六遠山水図	池大雅	6幅のうち 2	〃	〃 18C
54	蘭亭曲水図屏風	与謝蕪村	6曲1双	〃	〃
55	花鳥図	岡本秋暉	1	幅	〃 19C
56	耶馬溪図巻	杜秋暉	1	巻	〃
57	虎嘯生風図	円山応挙	1	幅	〃 18C
58	西行と遊女図	奥村政信	〃	〃	〃
59	二美人図	歌川豊国	〃	〃	〃



41. 因幡堂縁起

書跡

60	◎ 賢愚経残巻 (大聖武)	伝聖武天皇	1	巻	奈良8C
61	仏説宝雨経 (天平十二年五月一日経)		〃	〃	〃
62	紺紙銀字華嚴経卷第十六残巻 (二月堂焼経)		〃	〃	〃
63	後撰集切	伝源俊頼	1	幅	平安12C
64	石山切 (貫之集 下)	藤原定信	〃	〃	〃
65	田歌切	伝寂蓮	〃	〃	〃
66	◎ 大唐西域記		12巻のうち 1	巻	〃
67	明月記	藤原定家	1	巻	鎌倉13C
68	詠草	後柏原天皇	1	幅	室町16C



80. 帝釈天立像



86. 瑞花双鳳八棱鏡



106. 巴透鏡

69	和歌卷	本阿弥光悦	1	卷	桃山17C
70	和歌屏風	近衛信尹	6曲1双	〃	〃
71	○ 龍虎二大字	後陽成天皇	1	幅	〃 16~17C
72	書 状	烏丸光広	〃	〃	江戸17C
73	詠 草	北村季吟	〃	〃	〃
74	一行書	北島雪山	〃	〃	〃
75	唐詩五言絶句	池大雅	〃	〃	〃 18C
76	一行書	菅川淇園	〃	〃	〃 18~19C
77	桜 賦	佐久間象山	〃	〃	〃 19C
78	詩書屏風	貫名砒翁	6曲1双	〃	〃
79	七言絶句	頼山陽	1	幅	〃

彫 刻

80	帝釈天立像	1	軀	平安10C
81	阿弥陀如来立像	〃	〃	鎌倉13~14C
82	行道面 多聞天	1	面	〃
83	〃 功德天	〃	〃	〃

金 工

84	金銀平脱八角鏡 (模造)	1	面	原品、正倉院 奈良 8 C
85	金銅柄香炉	1	柄	平安12C
86	◎ 瑞花双鳳八棱鏡	1	面	〃
87	和 鏡 山形県羽黒山出土	6	面	〃
88	蓬萊鏡	1	面	鎌倉13C
89	松梅文釜 (芦屋)	1	口	室町15C
90	八角叢釜	〃	〃	桃山17C
91	胴 乱	1	個	江戸17C
92	花籠形釣香炉	1	基	〃 19C
93	鶉香炉	1	対	〃 18C

刀 剣

94	刀 銘国広	1	口	桃山17C
95	刀 銘大鷲峰藤原正吉 慶長十一年三月吉日	〃	〃	〃
96	刀 銘肥前国忠吉 慶長五年八月吉日	〃	〃	〃 16C
97	刀 銘肥前国住人忠吉作 (土佐守忠吉) 寛永五年八月吉日	〃	〃	江戸17C
98	刀 銘肥前国住人伊予掾源宗次	〃	〃	〃
99	○ 短刀 銘繁慶	〃	〃	桃山17C
100	脇指 銘 (葵紋) 以南宮鏡於武州江戸越前康継 曾敬吉光撰	〃	〃	〃
101	金梨地葵紋散糸卷太刀拵	〃	〃	江戸17C
102	黒塗劍鞘大小拵	1	腰	〃 18C
103	琴柱・大根・雪華文透鐔 無銘甲冑師	1	枚	室町16C
104	○ 漁舟図鐔 銘山城国伏見住金家	〃	〃	桃山16C
105	松上鷹図鐔 無銘志水基五	〃	〃	江戸17C
106	◎ 巴透鐔 銘信家	〃	〃	桃山16C
107	八ッ廓手透鐔 無銘林又七	〃	〃	江戸17C
108	稻穂文鐔 銘吉岡因幡介	〃	〃	〃 18C
109	鼓透鐔 銘在哉	〃	〃	〃
110	葡萄栗鼠図鐔 銘長門萩住中井善助友恒作	〃	〃	〃
111	一輪牡丹図鐔 銘夏雄製	〃	〃	〃 19C
112	水辺鶯図鐔 銘以徐照図彫鏤其昇光弘 (花押)	〃	〃	〃
113	枝桃園三所物 銘紋宗乘光侶 (花押)	〃	〃	室町16C
114	草花に虫図三所物 銘後藤一乘 (花押)	〃	〃	江戸19C



115. 千鳥蒔絵手箱

漆 工

115	千鳥蒔絵手箱		1	合	鎌倉13C
116	橘千鳥蒔絵硯箱		〃	〃	室町15C
117	扇面塩山蒔絵手箱		〃	〃	〃
118	菊桐紋蒔絵角壺		〃	〃	桃山16C
119	花鳥蒔絵螺鈿櫃		〃	〃	〃
120	貝蒔絵大鼓胴		1	本	〃 17C
121	瓜茄子蒔絵大鼓胴		〃	〃	〃 16C
122	岩牡丹蒔絵鞍轡		1	具	江戸18C
123	桐鳳凰蒔絵高盤		1	基	〃
124	秋景蒔絵料紙硯箱		1	具	〃 19C
125	貝尽蒔絵花見弁当		1	組	〃 18C
126	萩蝶蒔絵手箱	沢田宗沢齋	1	合	明治19C

陶 磁

127	自然袖蓋付壺	須惠	1	口	奈良8 C
128	灰袖蓋付壺	猿投	〃	〃	平安10C
129	灰袖蓮弁文大壺	渥美	〃	〃	〃 12C
130	◎黄袖牡丹唐草文大口壺	古瀬戸	〃	〃	鎌倉14C
131	褐袖印花牡丹文大口壺	〃	〃	〃	〃
132	自然袖刻文大壺	信楽	〃	〃	室町15C
133	自然袖大壺	越前	〃	〃	〃
134	耳付水指	備前	〃	〃	桃山16C
135	耳付花生	伊賀	〃	〃	〃 17C
136	志野橋文茶碗 銘橋姫	美濃	〃	〃	〃 16C
137	織部桥文角鉢	〃	〃	〃	〃 17C
138	朝鮮唐津一重口水指	唐津	〃	〃	〃
139	彫唐津茶碗	〃	〃	〃	〃 16C
140	絵唐津竹文茶入	〃	〃	〃	〃 17C
141	染付山水文大鉢	伊万里	〃	〃	江戸17C
142	黄袖染付草花文四方鉢	〃	〃	〃	〃
143	色絵花卉文壺	〃	〃	〃	〃
144	◎色絵花鳥文大深鉢	伊万里 (柿右衛門様式)	〃	〃	〃
145	色絵更紗文大皿	〃	1	枚	〃
146	染付雪景山水図大皿	鍋島	〃	〃	〃 17~18C
147	色絵巻軸文皿	〃	〃	〃	〃
148	色絵蝶牡丹文大皿	古九谷	〃	〃	〃 17C
149	色絵牡丹文水指	野々村仁清	1	口	〃
150	染付龍瀟文提重箱	青木木米	〃	〃	〃 19C



144. 色絵花鳥文大深鉢

染 織

151	薄黄縮緬地桐和歌文字模様振袖		1	領	江戸18C
152	納戸縮緬地草花模様小袖		〃	〃	〃
153	赤繪子地葛繪扇模様打掛		〃	〃	〃
154	敷瓦菊芒模様唐織		〃	〃	〃 17C
155	鱗形棧車模様厚板		〃	〃	〃 18C
156	緑緞地菊花束牡丹折枝模様長絹		〃	〃	〃 19C

※名称の頭に付した記号は、それぞれ ● 国宝 ◎ 重要文化財 ○ 重要美術品 を示す。

## 佐賀県考古学史—3— 木下 治之(その2)

① 昭和40年代中頃から地域開発に伴う発掘調査は大形となり、旧石器時代から江戸時代の古蹟跡にまでおよんだ。そうなるに当たりに係る負担も増大する一方で、文化財保護の意識にめざめた市町村では、遺跡の調査に積極的な取り組みを始めた。そこで木下に係る負担も増大し、発掘調査に関係をして昭和44年に報告された論文に、

- 『帯限山神籠石東北部調査概報』佐賀市文化財調査報告書 昭和44年2月
  - 『帯限山神籠石天童山東部調査概報』神埼町文化財調査報告書 昭和44年3月
  - 『西有田町縄文遺跡』佐賀県文化財調査報告書第18集 昭和44年3月
  - 『佐賀市金立・久保泉地区古墳群』佐賀市文化財調査報告書 昭和44年3月
  - 『天神尾古墳群調査概報』神埼町文化財調査報告書 昭和44年8月
  - 『坂の下縄文遺跡出土の木の実』佐賀の植物 昭和44年8月
  - 『有田町猿川古窯跡-第1部発掘調査概報-』佐賀県文化財調査報告書 昭和44年12月
- 等がある。

木下は、文化財保護の業務にたずさわった昭和20年代後半から昭和40年前半までの遺跡の緊急発掘調査の状況を、『佐賀県における緊急発掘とその問題点』(考古学ジャーナル47号 昭和45年8月)において、昭和20年代・昭和30年代・昭和40年代に分けてその時代的特色を記している。この記録は、木下自身の文化財保護行政の足跡であると同時に、これから学問的成果も知らることが可能である。佐賀県における文化財担当職員の充実と機構・組織の確立は昭和40年代後半からのことで、いうならば木下以降の人々によって試みられるわけである。この中で昭和40年代前半までの状況を、「道路の改修や新設・林野の開墾事業や河川の改修等は、行政面の横の連絡が全く不十分で事前にその工事をキャッチすることができず、調査は後手に廻っている現状で、一般個人の遺跡の破壊を伴う事業に対しては、全く施す術がない状態である。」と記しており、緊急調査の内容や質においては幾度階かの変遷をたどってきたが、担当者自身への負担として課されている現状は、全国的な実態であったことはいうまでもない。

この報告の中で三期の区分の特色について、昭和20年代の緊急調査の特色を「県民の遺跡や遺物に対する関心は極めて低く、また、文化財保護法の趣意は市町村当局でもほとんど理解されていない段階である。」とし、この時期の開発行為が小規模な手開墾であったため、遺跡の破壊は免れたとしている。この昭和20年代に行われた主な発掘調査に、

- 葉山尻支石墓群(唐津市半田)
- 三津永田遺跡(神埼郡東符振村)
- 本分貝塚(三養基郡三根町)

等がある。

昭和30年代の緊急調査は、「30年代の前半においては、

工事中に遺跡が発見されても、完全に破壊される前にその一部の調査を実施することが可能であったが、ブルドーザーが普及した後半の時期になると、遺跡の発見と同時に調査を実施しない限り調査は不可能となり、大部分の遺跡は完全に破壊浸漬されるという事態をむかえた。」としている。このことは、開発行為による遺跡の消滅が「密柑園造成」によるもので、密柑園造成ブームが継続する昭和40年代初頭までの状況か進行する。また、昭和130年代前半は、「日本考古学協会あるいは東亜考古学会による唐津湾周辺の考古学的総合調査などの学術調査が実施されて、考古学的調査に対する県民の関心が高まった時期でもあった。」としている。この30年代の特筆できる発掘調査に、おぼ山神籠石(武雄市)と帯限山神籠石(佐賀市)があり、いずれも密柑園造成による緊急調査で、それまでの説に対して古代の山城説が有力となった調査でもあった。木下は多くの調査の中で、山崎経塚(多久市多久町)・蜷尾山経塚(鹿島市鹿島町)・牛塚経塚(藤津郡塩田町久間)の調査をも実施し、後の『佐賀県の経塚』という論文へと続き、県立博物館経塚資料の基本となる。昭和30年代のその他の主な発掘調査に、

- 切通墓館遺跡(三養基郡上峰村切通)
- 田手甕埴群(神埼郡三田川町田手)
- 瀬戸口支石墓(唐津市宇木)
- 久里遺跡(唐津市久里)
- 丸山古墳(佐賀市金立町)
- 船野古埴群(杵島郡白石町)
- 熊本山舟形石棺墓(佐賀市久保泉町)

等がある。

昭和40年代の緊急調査は、「農業構造改善事業、道路建設・宅地造成などの開発関係事業の規模が著しく大きくなるとともに、遺跡の破壊も広範囲におよぶようになったため、この事態に対処する緊急調査の体制を早急に整える必要に迫られた。」と記している。昭和40年代前半には、県内でも高速道路やバイパス道路の建設ならびに大形宅地造成が開始され、当時の県教委社会教育課の文化財調査に対する体制に大きな問題提起がなされた。ここにも書かれているように、「過ぎ去った調査を回顧して、調査費と調査員の不足のため不十分な調査に終わっていることが甚だ遺憾である……過去を反省しまず考えられることは、調査が後手に廻っていることである。開発事業に対して先手を取るべきことができないのか、そのためにはもう一度遺跡の精密な分布調査を実施することが必要であり、重要遺跡の史跡指定も積極的にを行う時期にきているように考えられる。」と、その基本的な問題提起と根本的な解決策を模索している。さらに「その前提となるものは調査員と経費の確保であって、ここに埋蔵文化財の保護および緊急発掘調査の課題がひそんでいるのではなからうか。」と記しているように、一段と大形化する地域開発に対する当時の担当者の切なる希望の一端を見ることができよう。このような中で、有田町猿川古窯跡(昭和44年6月)・呼子町大友遺跡(昭和45年8月)・伊万里市源平岩洞穴(昭和46年3月)・三日町土生遺跡(昭和46年9月)・小城町久蘇遺跡(昭和46年10月)・中原町姫方遺跡(昭和47年3月)・鹿島市儀助平洞穴(昭和47年7月)といった縄文時代から江戸時代まで広く手がけるよ

うになった。

そこで、調査員の確保と組織の再編成は、墓棺墓を中心とした弥生時代から古墳時代初期にかけての姫方遺跡の調査において起因し、これまでの調査員と経路の中で対応することができ、昭和47年8月には県教育委員会の中に文化課が設置され、木下は、発掘調査の指導・助言者として新たに設けられた文化財調査監に就任し、再度文化財保護行政に取り組むことになる。

② 木下之治の考古学研究の一つに「経塚」が知られており、その研究成果に『佐賀県の経塚』（佐賀県教育委員会 昭和45年3月）がある。いうまでもなく経塚は、築成が最も盛んであった平安時代から鎌倉時代にかけての末法思想の影響による信仰の一つで、この『佐賀県の経塚』は平安時代・鎌倉時代・室町時代の経塚出土品を集大成したものである。当時、県内で確認されている経塚は29遺跡とされ、確実に遺物が残存する21遺跡について出土地・出土遺物・発見年月日・出土状況等を明記し、出土品が残存しない6遺跡と経塚と推定される2遺跡についても各種報告書から引用している。木下は、民間信仰に関する資料調査も、遺跡の発掘調査のたつたわら精力的に行っており、宗教遺跡を考古学的研究法と結合した集積が『佐賀県の経塚』で、研究範囲の広さをも知ることができるとしている。

③ 木下は、前記の『佐賀県における緊急発掘とその問題点』の中で、「重要遺跡の史跡指定も文化財保護の一手段である。」と記しているが、その史跡指定のための発掘調査の一環として佐賀市金立町に所在する西隈古墳と鏡子塚古墳の発掘調査と、武雄市の潮見古墳の再調査を実施している。

西隈古墳（『西隈古墳』佐賀市教育委員会 昭和50年1月）は、歴史公園はがくれの里整備事業の一環として、昭和49年11月に再調査が実施された。この西隈古墳の石室内には、矢部川の流域に産する阿蘇溶岩で製作された家形石棺があり、家形石棺の前面に円を主体とした幾何学文様が施文されている状況等から、5世紀後半から6世紀初頭に位置づけ、「西隈古墳は筑紫文化圏が産み出した古墳文化の所産の一つであるとみることもできるのである。はなからうか。肥前風土記の佐嘉郡の条にあらわれている佐賀県は、筑後川や矢部川流域を本拠とする筑紫郡との関係が深かったことを、この西隈古墳は物語っているのではないかと考えられる。」と記し、肥前国風土記との対比を試みている。

鏡子塚（『鏡子塚』佐賀市教育委員会 昭和51年1月）も、重要遺跡保存対策の一環として記録保存のために調査が実施されたもので、金立町・久保泉町一帯の古墳群の中でもその中心をなすもので、古墳は、主軸の全長96m・後円部の径58m・前方部の最大幅33m・後円部の高さ8m・前方部の高さ4mを有する柄杓形の前方後円墳で、古墳の周辺は平坦地をなし、古墳の周囲は周濠がめぐらされている。このような鏡子塚の状況から、「本県における初現的な古墳の中の一基であり、しかも、その形式や壘形土器の埋置など4世紀の中葉前後に比定されている奈良県の茶臼山古墳に類似している点が注目される。しかし、その立地や5世紀前半に定形化の方向をたどるといわれている周濠が整然と設けられている点など

からみて、5世紀前半に築成されたものと推定するのが妥当ではないかと考えられる。」と記し、古墳の特色から編年の位置づけを試み、脊振山系の古墳文化の中心的な古墳としてとらえている。また、佐賀地方への大和政権の伸張を知り資料として、前方後円墳の立地状況を重要視していることがうかがえる。

この西隈古墳と鏡子塚の調査の結果は史跡指定の基礎資料となり、西隈古墳は昭和50年6月に、鏡子塚は昭和53年3月にそれぞれ国の史跡として指定された。

潮見古墳（『武雄市潮見古墳』武雄市教育委員会 昭和50年12月）は、昭和31年の発見以来精査が行われることはなく、出土遺物のみに注目されていた。そこで、封土の測量や石室の突測ならびに出土遺物の精査を行ったもので、後に出土遺物は一括して県重要文化財に、古墳は県史跡として昭和54年3月に指定された。木下は、この報告書の最後の考察の中で「潮見古墳の築成も、武雄盆地における農耕社会の発達過程における所産であった、石室の構造や出土遺物などからみて、その築成年代は6世紀中葉前後と推定される。6世紀初頭と推定される永島の玉島古墳とともに、この潮見古墳が武雄盆地の西南端部に位置しているのは注目される点であり、また、由緒古い潮見神社の背後に所在している点、神崎町仁比山の忠五郎山古墳が仁比山神社の前面に位置し、鹿島市行成の鬼塚古墳が琴路神社の背後に位置しているなど、古墳の被葬者に対する祭祀と古墳の創祀との関連性を考究する上からも潮見古墳は今後更に検討するべき意義を有しているのではないかと考えられる。」と述べ、被葬者に対する祭祀と古墳の創祀との関連性について、問題提起を行っている。木下は、今後の検討課題としていたが、解決のための究明にまで手はのびなかった。

④ 木下之治が、文化財担当者としての25年間間の発掘調査が、北方町に所在する牧古窯跡（『牧古窯跡』北方町教育委員会 昭和51年3月）である。この古窯跡の全容は明確でないが、蔵骨器として使用された口縁打欠きの壘形土器の出土等から、平安時代前期に位置づけられる。この報告書の出版を最後の仕事にして、昭和51年4月には文化財調査監の職を辞する。木下は、公職を辞した後も、各市町村の文化財保護審議委員や佐賀市史・嬉野町史・中原町史等の執筆委員として研究を継続するが、健康を害して加齢を続けながら『佐賀市史第1巻（原始・古代）』や『嬉野町史（上巻）』の執筆を終了している。特に嬉野町史（上巻）は、木下最後の出版物であり、昭和55年2月に没する。木下には考古学の他に、歴史学・民俗学の論文が多くなる。

（資料係長 森 静一郎）



## [展 覧 会 案 内]

### — 古唐津・中里無庵・十三代太郎右衛門展 —

- 内 容…壺、水指、茶盤、花生、茶入、徳利など、唐津焼を代表する中里無庵、太郎右衛門の作品を中心に、併せて室町時代から幕末にいたる古唐津の代表的な作品、佐賀、長崎地方に残っている古窯跡からの出土品、伝世品など約180点を展示する。
- 主 催…読売新聞西部本社 佐賀県立九州陶磁文化館 佐賀県立博物館 FBS福岡放送
- 後 援…佐賀教育委員会
- 協 賛…表千家 裏千家 武者小路千家 藪内宗家 逢州流 宗徧流
- 会 場…佐賀県立博物館（佐賀市城内1丁目15-23 Tel0952⑨3947）
- 会 期…10月20日（土）～11月4日（日）
- 観覧料…大 人 500円（400円）  
学生（大学・高校・中学生） 300円（200円）  
（ ）内は団体20名以上

標



叩き黒唐津三足耳付水指「福の神」



唐津刷毛目辰砂草花文水指



叩き朝鮮唐津壺



叩き唐津三島象嵌魚文壺「玄海の魚」

博物館報	第66号
発行年月日	昭和59年10月1日
編 集	大塚正道
発 行	佐賀市城内1丁目15-23
印 刷	㈱大同印刷